

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501628
法人名	株式会社 セイフティー東予
事業所名	グループホーム 竹トンボ
所在地	愛媛県新居浜市落神町3番11号
自己評価作成日	平成 23年 2月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で安心して生活を送り、地域と共に様々な行事に参加したり協力を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄駅から歩いて数分の所にある当ホームは、山手に造成された自然豊かな住宅地の一番奥にある。開設から5年が経過し、夕涼み会など地域住民との交流が盛んに行われ、地域に根差したホームである。利用者は、認知症ケアの専門職による適切な介護により、できる限り薬に頼らない生活ができています。また、季節に合わせた献立は、薄味で食材の味を活かし食べやすく調理されており、利用者の楽しみの1つとなっている。ホームの理念「日々是好日」を実践するよう全職員が1つとなり、利用者一人ひとりの心に寄り添った質の高い介護を目指している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム 竹トンボ

(ユニット名)

コスモス

記入者(管理者)

氏 名

横川 崇

評価完了日

23 年 2月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ユニット入口とトイレに掲示している。また、フロア会を行う際にも記載し日々の支援に繋げている。 (外部評価) 開設から二年経過した時に職員全員で話し合って作成した「日日是好日」という理念を見やすいところに掲示し、ミーティングの時などに話し合うことで共有し、全職員が心を一つにして日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元自治会に加入し、地域の行事などにも参加している。また、事業所での行事にも多大な協力を得ている。 (外部評価) 毎年夏の夕涼み会は、自治会の協力を得て盛大に開催でき地域住民から大変喜ばれている。昨年末には併設のデイサービスと合同で餅つきをし、地元婦人会と一緒に地域の高齢者宅に配布し喜ばれた。祭りの時に子ども太鼓台のトイレ休憩の場所として提供している。	地域の幼稚園や小中学校に積極的にホームの紹介を行い、ホームの行事へ参加してもらったり、子どもたちの訪問が行われるなど、交流が盛んになるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて認知症介護に関する質問なども受けている。また、公民館にも施設の季刊誌なども置かせていただいて活動を知っていただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 具体的なサービスに対する意見などはないが行事などの案や協力を得て行っている行事もある	
			(外部評価) 会議は家族や地域住民の代表者、市職員、ホーム職員が参加し2か月ごとに開催され、入所者の状況報告や行事についての話し合いが行われている。また、ホームを会場にしたイベント時には、地域住民が積極的に関わってくれる。会議録とは別に出席簿を作成し、参加者の状況が分かりやすく記録されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月、待機者状況などを報告したり、電話等でも連絡を取り合っている。	
			(外部評価) 市の担当者とは月1回、定期的にメールで状況確認を行うようにしている。運営推進会議にもできる限り参加してもらえるようお願いしているが、担当者が1名のため、他の行事と重なった時は欠席することもある。	市担当者の出席率が外部評価の受審を2年に1回にするための要件にもなっており、ホームにとって運営推進会議は地域との連携や情報交換の大切な会議であるため、市担当者の積極的な出席をお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は絶対にしないという思いで支援している。	
			(外部評価) 身体拘束排除のマニュアルを整備し職員全員が正しく理解し、利用者の安全を確保しながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者が外出を希望する時は、職員が付き添いながら見守るなど配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待法の書面を事務所に置きました、会議などでテレビなどで他施設の事故や事例に基づき話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用例はなく今年度は学べていない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を使用し御家族の理解できるよう説明してから承諾していただき契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、入居者の希望を聞いたり家族へのアンケートも行っている。また、来年度は介護相談員を受け入れる予定である。 (外部評価) 家族向けのアンケートを実施し、結果を職員で検討してホームの運営に反映させたいと考えている。家族から要望があった時は受付者が責任を持って記録を行い、担当者に伝達漏れがないよう注意しており、家族から信頼を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個々の相談は随時聞いてはいる。年1回は個人面談を行い個々の課題や目標を聞きアドバイスをを行っている。 (外部評価) 管理者は、職員をもっと外部研修に参加させたいと考えているが、現在は職員数にゆとりがなく困難な状況である。新規事業所の開設が相次ぐ当地域において、良い人材を確保するため、代表者は職員と意見交換しながら待遇面の改善を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者と日々職員待遇への意見交換などを行うように概ね2ヶ月に1度位の頻度で主任と代表者とで話し合いを設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 今年度は職員の入れ替わりが多く数回の研修派遣しか行えておらず充分とは言えない	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し他施設のいい所を吸収していただき、研修後フロア会などで発表してもらい意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 個々に担当者を配置し細かい要望や家族との手紙などで関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望や思いを聞きケアプランなどにも取り入 れている。また、毎月手紙で状況報告を行ったり、面 会時には近況を報告し相談している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入所前に通われていた病院なども継続し家族、ご本人 の意見を聞きながら支援をするよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活を共にする擬似家族として接し本人の出来る出来 ないを見極めたうえで出来ない事をさりげなく支援し ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診などして頂ける家族には出来る限りお願いし て行事等の参加も依頼している。また、面会時には近 況を報告し相談もしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 買い物や外出時に自分の家が見てみたいと言われた時 には寄って観る事もあり何か専門的な者を購入する際 も以前購入した所へ行き買い物される事もあります。 (外部評価) 違う施設に入所した友人を訪ねたり、メガネの修理に 昔からの馴染みの店へ行くなど、今まで築いてきた馴染 みの人との関係の継続を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格などを見極め席を変えてみたり馴染みの関係が出来るよう職員が間に入り支援もしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も依頼や電話があれば相談を受けたりし、退院後に再度入居された方も居られます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに意向を聞いてみたり家族にも相談をし、本人にとって必要な事を検討している。	
			(外部評価) 家族へは、面会時に希望や意向を聴くようにしている。職員は利用者ごとの担当制にしているが、担当以外でも気がついたことは担当職員や計画作成担当者に伝えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活は本人にきいてみたり家族さんや面会の方にも聞いて情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活を送る中で観察し出来る事、困難な事を考え、一日の生活パターンの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の意向や家族の希望を聞いた上で職員間で話し合い何が本人に必要なかを検討し作成している。	
			(外部評価) ケアプランをもとに作成された日々のケアチェック表はシンプルで記載しやすい様式になっている。内容については毎月のフロア会で評価し3か月に1回ケアプランを見直している。各ユニットの計画作成担当者2名とも、管理者とともに開設当初から変わらず勤務している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、気づき、変化などの記録をし職員間で話し合い見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の家族の方が施設入所され夢で出てこられて心配だと不安がられたので付き添い面会に伺い会った事で安心された事があり出来る限りニーズに応えるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) スーパーや病院、公園や公共の施設などを把握し外出の機会を持ちながら安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は入居前に行かれていた病院にそのまま受診行っ ている。 (外部評価) 月1回、それぞれのかかりつけ医への受診を支援し、 結果は家族に報告している。必要があれば受診を家族 にお願いすることもある。緊急時の対応等は、入居時 に説明し、同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時付き添いは調節主治医に報告し家族の方が行か れる場合には近況を報告した上で受診していただい ている。また、受診後には受診結果を報告していただ いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は定期的に来院し、主治医、家族、SW等と相 談を行い連携を照りあっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化されてきている入居者さんはご家族さんが面会 に来られた場合に竹トンボの方針を報告したり相談も している。 (外部評価) ホームとしては、重度化したり終末期になってもでき る限り看たいと考えているが、実際に看取った経験は 今のところない。今後、利用者が重度化することも考 えられるので、ホームとしての方針を作成する予定で ある。	重度化や終末期に向けた方針として、ホームとしてで きることでできないことを明記した文書を早期に作成 されることを期待したい。そのために、関係者全員で 話し合いを重ね、利用者や家族に理解してもらい同意 を得ることが望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変はマニュアル化し説明は行っているが実践力が全員にあるとは言えない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難、火災訓練は消防計画に添って行っている。また近隣の住宅からの応援体制も図っている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署員の指導を受けている。地域住民の参加には至っていないが、運営推進会議等でも話し合いが行われ、お互いに協力体制が構築できている。スプリンクラーは、平成23年度中に設置予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけは相手に選択できるよう促す声かけを心がけているが方言混じりになる事も多い。 (外部評価) 職員は、利用者を名字で呼ぶようにしている。同じ名字の場合は名前呼び、親しみの中にも節度を守り、命令口調にならないよう心掛けている。職員の声かけに対し、利用者は「ありがとう」と返答し、お互いによりコミュニケーションがとれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 献立やレクなど本人の希望や要望を聞いて行っている事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り本人のペースで生活して頂くよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日化粧や、マニキュアされ方も居られたり髪を染めたいや散髪等支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜を切る方、調理する方、お箸やマットお茶を配る方、食器を洗う方等様々な役割を行っていただいています。	
			(外部評価) 献立は季節に合わせて管理者が考え、薄味で食材の味を活かし食べやすく調理されている。ほとんどの利用者が自力で食べることができ、食後食器の片づけも各自で行っている。糖尿病のためインスリン注射をしていた利用者が、主治医の指導により食事に気をつけた結果、投薬のみになった事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月体重測定を行い主治医に相談しながら量で調節している。毎食時必ず汁物を付ける様にしている。水分摂取困難な方はトロミを入れたりお茶ゼリーを造り食べて頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後洗面所にて口腔ケアを行っており、夜間は義歯の方は外していただき義歯洗浄も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿チェック表を記録し個々に合わせてトイレ誘導を行っている。日中は全員トイレにて排泄されています。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。睡眠を優先するため、夜間帯のみオムツやパットを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防には乳製品や果物、食物繊維などを取り入れそれでも排便ない方は主治医相談し緩下剤服用にて排便促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日行っているが介助必要な方は午前中に2人介助にて安全に入浴して頂いている。	
			(外部評価) 入浴は、利用者の希望や体調に合わせてほぼ毎日行っている。入浴前には必ず血圧を測定するなど安全に入浴できるよう配慮されている。入居当初は拒否していた利用者も今では入浴が日課となっており、清潔が保たれることで心身の状況も改善されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファーや和室また、自室などでも自由に過ごされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に内服表をファイルにまとめて把握に努めている。また、定期受診時に状態報告を行い主治医に相談し内服調整も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の興味のある事を見つけ行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内は自由に出ていただいているがそれ以上は体調や本人のADLレベルに応じて付き添い支援している。	
			(外部評価) 外出は、季節や体調に合わせて計画し、季節の花を見に行くなど利用者も楽しみにしている。ホームの近くに遊歩道があり、暖くなれば毎日散歩することができる。誕生日には希望に合わせて外食に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理できる方は持ってもらい買いたい物があるときには付き添い買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より電話の訴えがある場合には対応し年賀状や暑中見舞いなども出している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感に配慮し当たり前のものが当たり前にあるように共有空間を造るようにしている。	
			(外部評価) 玄関を入ると、中庭を挟んで左右対称に配置された平屋で、ユニット間の行き来がスムーズに行える。洗面台はユニットごとに6か所あり、食後の歯磨きもスムーズに行える。気候のよい時は、中庭で外気浴やバーベキューを楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各所にソファやベンチなどを置き、中庭にも自由に出れるようになっている。また、和室も設置しゆったりと座れるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅より家族の方が馴染みの物を持ってきて頂いている。また家族写真や行事写真、お孫さんからの似顔絵なども壁に貼っており、個々の生活空間を造られています。	
			(外部評価) 各居室にダンスとベッドが備え付けられており、テレビやいす等が持ち込まれている。安全面や清潔保持に配慮しつつ、仏壇や家族から届けられた季節の花も飾られ、落ち着いた心和む空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の空間は一定ではなくその人に応じて配置しているし自分の馴染みの者を自宅より持ってきていただいている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501628
法人名	株式会社 セイフティー東予
事業所名	グループホーム 竹トンボ
所在地	愛媛県新居浜市落神町3番11号
自己評価作成日	平成 23年 2月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で安心して生活を送り、地域と共に様々な行事に参加したり協力を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄駅から歩いて数分の所にある当ホームは、山手に造成された自然豊かな住宅地の一番奥にある。開設から5年が経過し、夕涼み会など地域住民との交流が盛んに行われ、地域に根差したホームである。利用者は、認知症ケアの専門職による適切な介護により、できる限り薬に頼らない生活ができている。また、季節に合わせた献立は、薄味で食材の味を活かし食べやすく調理されており、利用者の楽しみの1つとなっている。ホームの理念「日々是好日」を実践するよう全職員が1つとなり、利用者一人ひとりの心に寄り添った質の高い介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹トンボ

(ユニット名) 菜の花

記入者(管理者)

氏 名 横川 崇

評価完了日 23 年 2月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ユニット入口とトイレに掲示している。また、フロア会を行う際にも記載し日々の支援に繋げている。 (外部評価) 開設から二年経過した時に職員全員で話し合って作成した「日日是好日」という理念を見やすいところに掲示し、ミーティングの時などに話し合うことで共有し、全職員が心を一つにして日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元自治会に加入し、地域の行事などにも参加している。また、事業所での行事にも多大な協力を得ている。 (外部評価) 毎年夏の夕涼み会は、自治会の協力を得て盛大に開催でき地域住民から大変喜ばれている。昨年末には併設のデイサービスと合同で餅つきをし、地元婦人会と一緒に地域の高齢者宅に配布し喜ばれた。祭りの時に子ども太鼓台のトイレ休憩の場所として提供している。	地域の幼稚園や小中学校に積極的にホームの紹介を行い、ホームの行事へ参加してもらったり、子どもたちの訪問が行われるなど、交流が盛んになるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて認知症介護に関する質問なども受けている。また、公民館にも施設の季刊誌なども置かせていただいて活動を知っていただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 具体的なサービスに対する意見などはないが行事などの案や協力を得て行っている行事もある	
			(外部評価) 会議は家族や地域住民の代表者、市職員、ホーム職員が参加し2か月ごとに開催され、入所者の状況報告や行事についての話し合いが行われている。また、ホームを会場にしたイベント時には、地域住民が積極的に関わってくれる。会議録とは別に出席簿を作成し、参加者の状況が分かりやすく記録されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月、待機者状況などを報告したり、電話等でも連絡を取り合っている。	
			(外部評価) 市の担当者とは月1回、定期的にメールで状況確認を行うようにしている。運営推進会議にもできる限り参加してもらえるようお願いしているが、担当者が1名のため、他の行事と重なった時は欠席することもある。	市担当者の出席率が外部評価の受審を2年に1回にするための要件にもなっており、ホームにとって運営推進会議は地域との連携や情報交換の大切な会議であるため、市担当者の積極的な出席をお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は絶対にしないという思いで支援している。	
			(外部評価) 身体拘束排除のマニュアルを整備し職員全員が正しく理解し、利用者の安全を確保しながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者が外出を希望する時は、職員が付き添いながら見守るなど配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待法の書面を事務所に置きました、会議などでテレビなどで他施設の事故や事例に基づき話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用例はなく今年度は学べていない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を使用し御家族の理解できるよう説明してから承諾していただき契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、入居者の希望を聞いたり家族へのアンケートも行っている。また、来年度は介護相談員を受け入れる予定である。 (外部評価) 家族向けのアンケートを実施し、結果を職員で検討してホームの運営に反映させたいと考えている。家族から要望があった時は受付者が責任を持って記録を行い、担当者に伝達漏れがないよう注意しており、家族から信頼を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個々の相談は随時聞いてはいる。年1回は個人面談を行い個々の課題や目標を聞きアドバイスを行っている。 (外部評価) 管理者は、職員をもっと外部研修に参加させたいと考えているが、現在は職員数にゆとりがなく困難な状況である。新規事業所の開設が相次ぐ当地域において、良い人材を確保するため、代表者は職員と意見交換しながら待遇面の改善を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者と日々職員待遇への意見交換などを行うように概ね2ヶ月に1度位の頻度で主任と代表者で話し合いを設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 今年度は職員の入れ替わりが多く数回の研修派遣しか行えておらず充分とは言えない	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加し他施設のいい所を吸収していただき、研修後フロア会などで発表してもらい意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 個々に担当者を配置し細かい要望や家族との手紙などで関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望や思いを聞きケアプランなどにも取り入 れている。また、毎月手紙で状況報告を行ったり、面 会時には近況を報告し相談している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入所前に通われていた病院なども継続し家族、ご本人 の意見を聞きながら支援をするよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活を共にする擬似家族として接し本人の出来る出来 ないを見極めたうえで出来ない事をさりげなく支援し ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診などして頂ける家族には出来る限りお願いし て行事等の参加も依頼している。また、面会時には近 況を報告し相談もしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 買い物や外出時に自分の家が見てみたいと言われた時 には寄って観る事もあり何か専門的な者を購入する際 も以前購入した所へ行き買い物される事もあります。 (外部評価) 違う施設に入所した友人を訪ねたり、メガネの修理に 昔からの馴染みの店へ行くなど、今まで築いてきた馴染 みの人との関係の継続を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格などを見極め席を変えてみたり馴染みの関係が出来るよう職員が間に入り支援もしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も依頼や電話があれば相談を受けたりし、退院後に再度入居された方も居られます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに意向を聞いてみたり家族にも相談をし、本人にとって必要な事を検討している。	
			(外部評価) 家族へは、面会時に希望や意向を聴くようにしている。職員は利用者ごとの担当制にしているが、担当以外でも気がついたことは担当職員や計画作成担当者に伝えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活は本人にきいてみたり家族さんや面会の方にも聞いて情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活を送る中で観察し出来る事、困難な事を考え、一日の生活パターンの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人の意向や家族の希望を聞いた上で職員間で話し合 い何が本人に必要なかを検討し作成している。	
			(外部評価) ケアプランをもとに作成された日々のケアチェック表 はシンプルで記載しやすい様式になっている。内容に ついては毎月のフロア会で評価し3か月に1回ケアプ ランを見直している。各ユニットの計画作成担当者2 名とも、管理者とともに開設当初から変わらず勤務し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子、気づき、変化などの記録をし職員間で話 し合い見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の家族の方が施設入所され夢で出てこられて心 配だと不安がられたので付き添い面会に伺い会った事 で安心された事があり出来る限りニーズに応えるよう 努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) スーパーや病院、公園や公共の施設などを把握し外出 の機会を持ちながら安全で豊かな暮らしが出来るよう 支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は入居前に行かれていた病院にそのまま受診行っ ている。 (外部評価) 月1回、それぞれのかかりつけ医への受診を支援し、 結果は家族に報告している。必要があれば受診を家族 にお願いすることもある。緊急時の対応等は、入居時 に説明し、同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時付き添いは調節主治医に報告し家族の方が行か れる場合には近況を報告した上で受診していただい ている。また、受診後には受診結果を報告していただ いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は定期的に来院し、主治医、家族、SW等と相 談を行い連携を照りあっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化されてきている入居者さんはご家族さんが面会 に来られた場合に竹トンボの方針を報告したり相談も している。 (外部評価) ホームとしては、重度化したり終末期になってもでき る限り看たいと考えているが、実際に看取った経験は 今のところない。今後、利用者が重度化することも考 えられるので、ホームとしての方針を作成する予定で ある。	重度化や終末期に向けた方針として、ホームとしてで きることでできないことを明記した文書を早期に作成 されることを期待したい。そのために、関係者全員で 話し合いを重ね、利用者や家族に理解してもらい同意 を得ることが望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変はマニュアル化し説明は行っているが実践力が全員にあるとは言えない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難、火災訓練は消防計画に添って行っている。また近隣の住宅からの応援体制も図っている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署員の指導を受けている。地域住民の参加には至っていないが、運営推進会議等でも話し合いが行われ、お互いに協力体制が構築できている。スプリンクラーは、平成23年度中に設置予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけは相手に選択できるよう促す声かけを心がけているが方言混じりになる事も多い。 (外部評価) 職員は、利用者を名字で呼ぶようにしている。同じ名字の場合は名前呼び、親しみの中にも節度を守り、命令口調にならないよう心掛けている。職員の声かけに対し、利用者は「ありがとう」と返答し、お互いによりコミュニケーションがとれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 献立やレクなど本人の希望や要望を聞いて行っている事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り本人のペースで生活して頂くよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日化粧や、マニキュアされ方も居られたり髪を染めたいや散髪等支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜を切る方、調理する方、お箸やマットお茶を配る方、食器を洗う方等様々な役割を行っていただいています。	
			(外部評価) 献立は季節に合わせて管理者が考え、薄味で食材の味を活かし食べやすく調理されている。ほとんどの利用者が自力で食べることができ、食後食器の片づけも各自で行っている。糖尿病のためインスリン注射をしていた利用者が、主治医の指導により食事に気をつけた結果、投薬のみになった事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月体重測定を行い主治医に相談しながら量で調節している。毎食時必ず汁物を付ける様にしている。水分摂取困難な方はトロミを入れたりお茶ゼリーを造り食べて頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後洗面所にて口腔ケアを行っており、夜間は義歯の方は外していただき義歯洗浄も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿チェック表を記録し個々に合わせてトイレ誘導を行っている。日中は全員トイレにて排泄されています。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。睡眠を優先するため、夜間帯のみオムツやパットを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防には乳製品や果物、食物繊維などを取り入れそれでも排便ない方は主治医相談し緩下剤服用にて排便促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日行っているが介助必要な方は午前中に2人介助にて安全に入浴して頂いている。	
			(外部評価) 入浴は、利用者の希望や体調に合わせてほぼ毎日行っている。入浴前には必ず血圧を測定するなど安全に入浴できるよう配慮されている。入居当初は拒否していた利用者も今では入浴が日課となっており、清潔が保たれることで心身の状況も改善されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファや和室また、自室などでも自由に過ごされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に内服表をファイルにまとめて把握に努めている。また、定期受診時に状態報告を行い主治医に相談し内服調整も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の興味のある事を見つけ行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内は自由に出ていただいているがそれ以上は体調や本人のADLレベルに応じて付き添い支援している。	
			(外部評価) 外出は、季節や体調に合わせて計画し、季節の花を見に行くなど利用者も楽しみにしている。ホームの近くに遊歩道があり、暖かくなれば毎日散歩することができる。誕生日には希望に合わせて外食に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理できる方は持ってもらい買いたい物があるときには付き添い買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より電話の訴えがある場合には対応し年賀状や暑中見舞いなども出している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感に配慮し当たり前のものが当たり前にあるように共有空間を造るようにしている。 (外部評価) 玄関を入ると、中庭を挟んで左右対称に配置された平屋で、ユニット間の行き来がスムーズに行える。洗面台はユニットごとに6か所あり、食後の歯磨きもスムーズに行える。気候のよい時は、中庭で外気浴やバーベキューを楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各所にソファやベンチなどを置き、中庭にも自由に出れるようになっている。また、和室も設置しゆったりと座れるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅より家族の方が馴染みの物を持ってきて頂いている。また家族写真や行事写真、お孫さんからの似顔絵なども壁に貼っており、個々の生活空間を造られています。 (外部評価) 各居室にダンスとベッドが備え付けられており、テレビやいす等が持ち込まれている。安全面や清潔保持に配慮しつつ、仏壇や家族から届けられた季節の花も飾られ、落ち着いた心和む空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の空間は一定ではなくその人に応じて配置しているし自分の馴染みの者を自宅より持ってきていただいている。	